

コメント

2024.1.23

伴英幸

原子力資料情報室共同代表

原子力市民委員会政策部会メンバー

「手引き」のその後

- 適地マップから特性マップへ変質
 - NUMOの文献調査考慮事項をなぞるマップへ
 - 適地を指定するのは難しいとの理由から
 - 背景に小泉ショックとその後の動きがある

地層処分に適地はない (スライド6)

使用済燃料管理及び放射性廃棄物管理の安全に関する条約

前文 (xi)

放射性廃棄物は、その管理の安全と両立する限り、それが発生した国において処分されるべきものであることを確信しつつ、特定の場合、特に放射性廃棄物が共同事業により発生する場合には、いずれかの締約国の施設をその他の締約国のために利用するという締約国間の合意によって、使用済燃料及び放射性廃棄物の安全かつ効率的な管理が助長され得ることを認識し、

地質学的不確実性 の事前回避

千木良雅弘 著

高レベル放射性廃棄物 処分場の立地選定

—地質的不確実性の事前回避—



変動帯ゆえに見過ごされてきた地質的検討

HLW地層処分を考えると、誰もが日本のような変動帯で、地殻変動の影響を避けて何万年もHLWを隔離できるのだろうか、と思う。そして、従来HLW地層処分の地質的課題という、もっぱらそのことが重大視されてきた。しかしながら、私は、ダムや発電所の建設のための実際の調査に従事してきた経験から、HLW処分場候補地の調査を具体的にイメージするうちに、処分場に対する火山

総合的な放射性廃棄物政策の必要性

- 最終処分法ではガラス固化体とTRU廃棄物のみが対象
 - 全量再処理政策の反映

しかし、処分を急ぐ必要はない！

現実問題として発生している高レベル放射性廃棄物は

- 第一に取り組むべきとした福島第一のデブリ、HIC廃棄物
- 使用済み核燃料
- 使用済みMOX燃料
- 研究炉からの使用済み核燃料など

長期貯蔵を続けながら、これらへの処分を研究するべきではないか